

（５）事業所の立地場所に関する現状と課題

１）事業所の分布状況

○全体と比較して集積度が高いのは、高円寺の飲食、京王井の頭の建設、北部・南部の運輸業

- ・区内の事業所の立地場所を地域別にみると、最も多くの事業所が立地しているのは「京王井の頭地域」（4,744 事業所、21.8％）であり、次いで「荻窪地域」（3,472 事業所、16.0％）、「高円寺地域」（3,413 事業所、15.7％）、「西荻地域」（3,263 事業所、15.0％）、「南部地域」（2,731 事業所、12.5％）、「阿佐谷地域」（2,256 事業所、10.4％）、「北部地域」（1,883 事業所、8.7％）の順となる。
- ・業種別にみると、各地域で最も割合が高い業種は、荻窪地域は「学研究・専門技術サービス業」（20.9％）、西荻地域は「不動産業・物品賃貸業」（17.1％）、阿佐谷地域は「宿泊業・飲食サービス業」（15.1％）、高円寺地域は「宿泊業・飲食サービス業」（21.8％）、京王井の頭地域は「建設業」（27.5％）、北部地域は「運輸業・郵便業」（16.2％）、南部地域は「運輸業・郵便業」（20.8％）となる。
- ・これらの中で、地域全業種の割合と比べて集積が顕著なのは、高円寺地域の「宿泊業・飲食サービス業」、京王井の頭地域の「建設業」、北部及び南部地域の「運輸業・郵便業」である。

■図表 2-31 地域別の事業所数

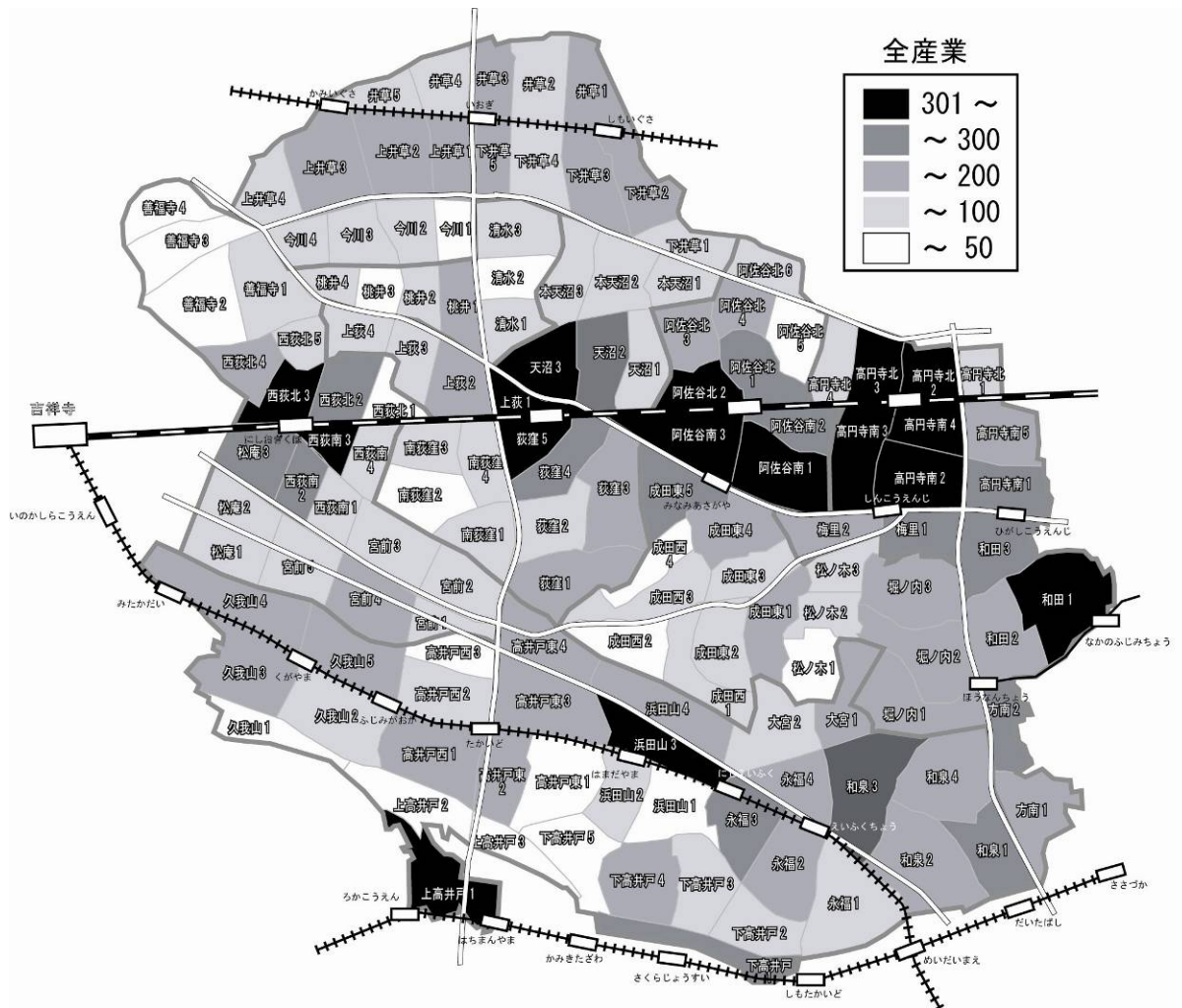
産業分類	ブロック別事業所数			
	荻 窪	西荻窪	阿佐谷	高円寺
建設業	137 (9.5%)	166 (11.6%)	106 (7.4%)	180 (12.5%)
製造業	79 (12.1%)	99 (15.2%)	40 (6.1%)	101 (15.5%)
情報通信業	108 (17.6%)	86 (14.0%)	57 (9.3%)	115 (18.8%)
運輸業、郵便業	39 (8.4%)	58 (12.6%)	26 (5.6%)	43 (9.3%)
卸売業、小売業	810 (15.8%)	828 (16.2%)	588 (11.5%)	828 (16.2%)
不動産業、物品賃貸業	530 (17.5%)	518 (17.1%)	224 (7.4%)	393 (13.0%)
学術研究、専門・技術サービス業	257 (20.9%)	189 (15.4%)	119 (9.7%)	177 (14.4%)
宿泊業、飲食サービス業	551 (16.8%)	468 (14.3%)	496 (15.1%)	715 (21.8%)
生活関連サービス業、娯楽業	275 (14.6%)	272 (14.4%)	223 (11.8%)	300 (15.9%)
教育、学習支援業	153 (17.7%)	126 (14.6%)	84 (9.7%)	107 (12.4%)
医療、福祉	325 (17.2%)	272 (14.4%)	183 (9.7%)	250 (13.2%)
サービス業（その他）	139 (15.0%)	124 (13.4%)	71 (7.7%)	155 (16.8%)
その他	69 (18.3%)	57 (15.1%)	39 (10.3%)	49 (13.0%)
合 計	3,472 (16.0%)	3,263 (15.0%)	2,256 (10.4%)	3,413 (15.7%)

産業分類	ブロック別事業所数			合計
	京王井の頭	北 部	南 部	
建設業	395 (27.5%)	206 (14.4%)	245 (17.1%)	1,435 (100%)
製造業	147 (22.6%)	52 (8.0%)	133 (20.4%)	651 (100%)
情報通信業	130 (21.2%)	51 (8.3%)	66 (10.8%)	613 (100%)
運輸業、郵便業	125 (27.1%)	75 (16.2%)	96 (20.8%)	462 (100%)
卸売業、小売業	1,052 (20.6%)	429 (8.4%)	582 (11.4%)	5,117 (100%)
不動産業、物品賃貸業	705 (23.2%)	260 (8.6%)	404 (13.3%)	3,034 (100%)
学術研究、専門・技術サービス業	213 (17.3%)	91 (7.4%)	183 (14.9%)	1,229 (100%)
宿泊業、飲食サービス業	602 (18.3%)	190 (5.8%)	259 (7.9%)	3,281 (100%)
生活関連サービス業、娯楽業	408 (21.6%)	158 (8.4%)	251 (13.3%)	1,887 (100%)
教育、学習支援業	190 (22.0%)	69 (8.0%)	134 (15.5%)	863 (100%)
医療、福祉	448 (23.7%)	188 (10.0%)	223 (11.8%)	1,889 (100%)
サービス業（その他）	239 (25.9%)	84 (9.1%)	112 (12.1%)	924 (100%)
その他	90 (23.9%)	30 (8.0%)	43 (11.4%)	377 (100%)
合 計	4,744 (21.8%)	1,883 (8.7%)	2,731 (12.5%)	21,762 (100%)

資料：平成 21 年経済センサス

- ・事業所の立地場所を町丁目別にみると、全業種ではＪＲ中央線の各駅周辺、中野富士見町駅周辺、浜田山駅周辺、八幡山・芦花公園駅周辺に集中している。

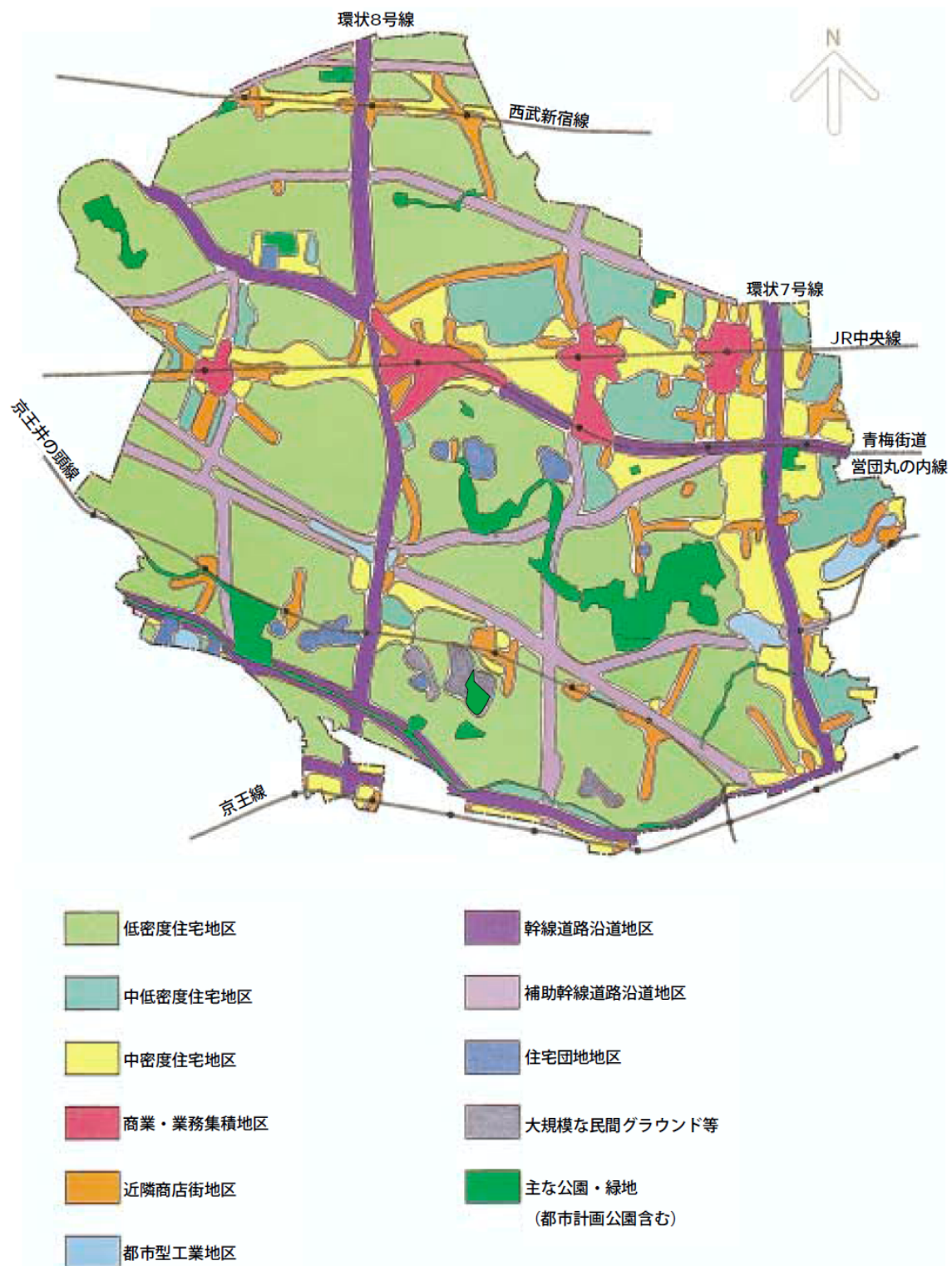
■図表 2-32 町丁目別の事業所数（全産業）



資料：平成 21 年経済センサス

【参考】事業所の立地は、都市計画法の用途地域によって建物用途が制限されている。杉並区では、下図のような土地利用方針を定めている。

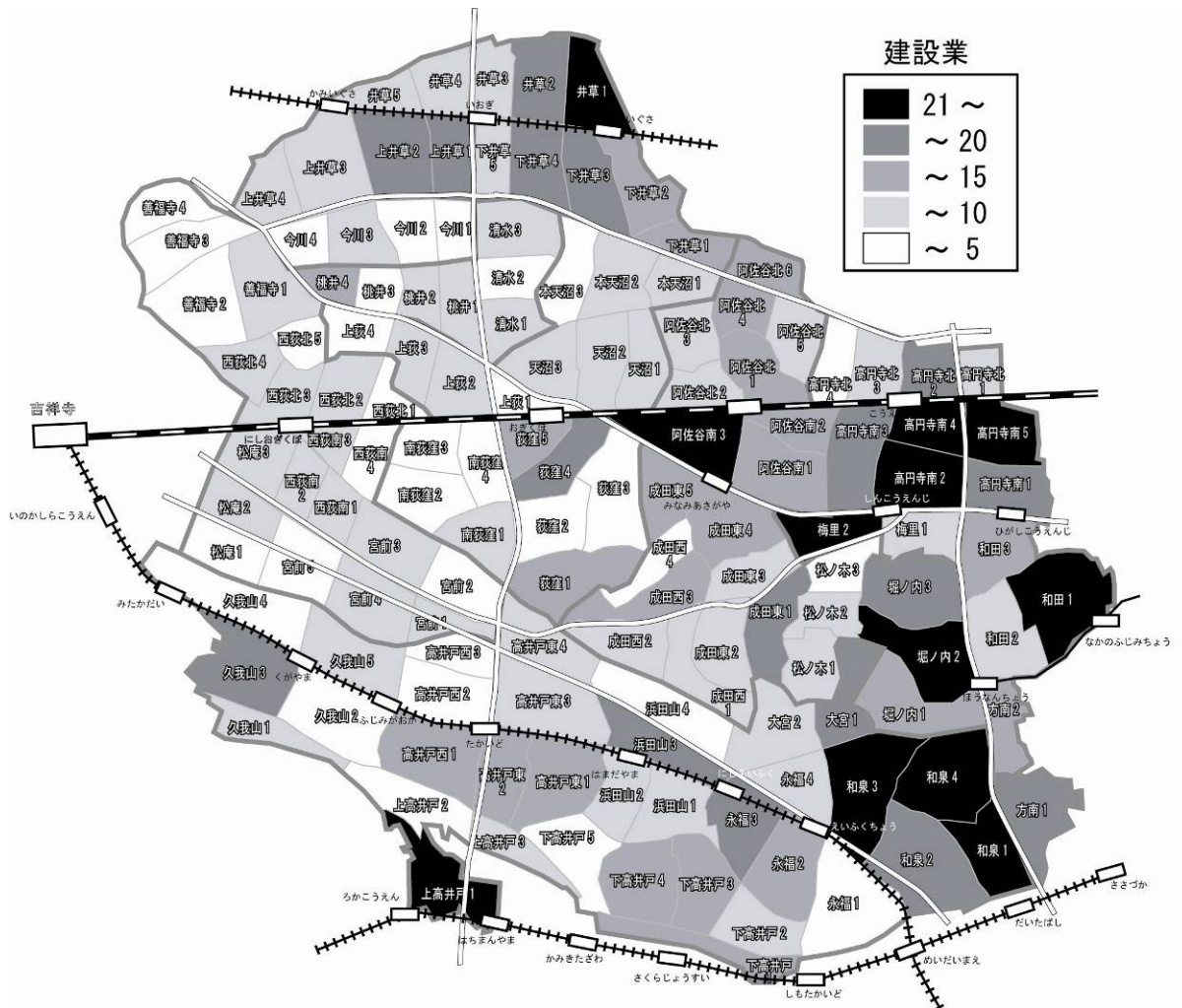
■図表 2-33 土地利用方針図



資料：杉並区都市計画マスタープラン

- ・建設業は、区の東側に多く立地しており、「和泉」「堀ノ内」「高円寺南」に集積がみられる。
また、北部の西武線沿線、南部の上高井戸1丁目にも多くみられる。

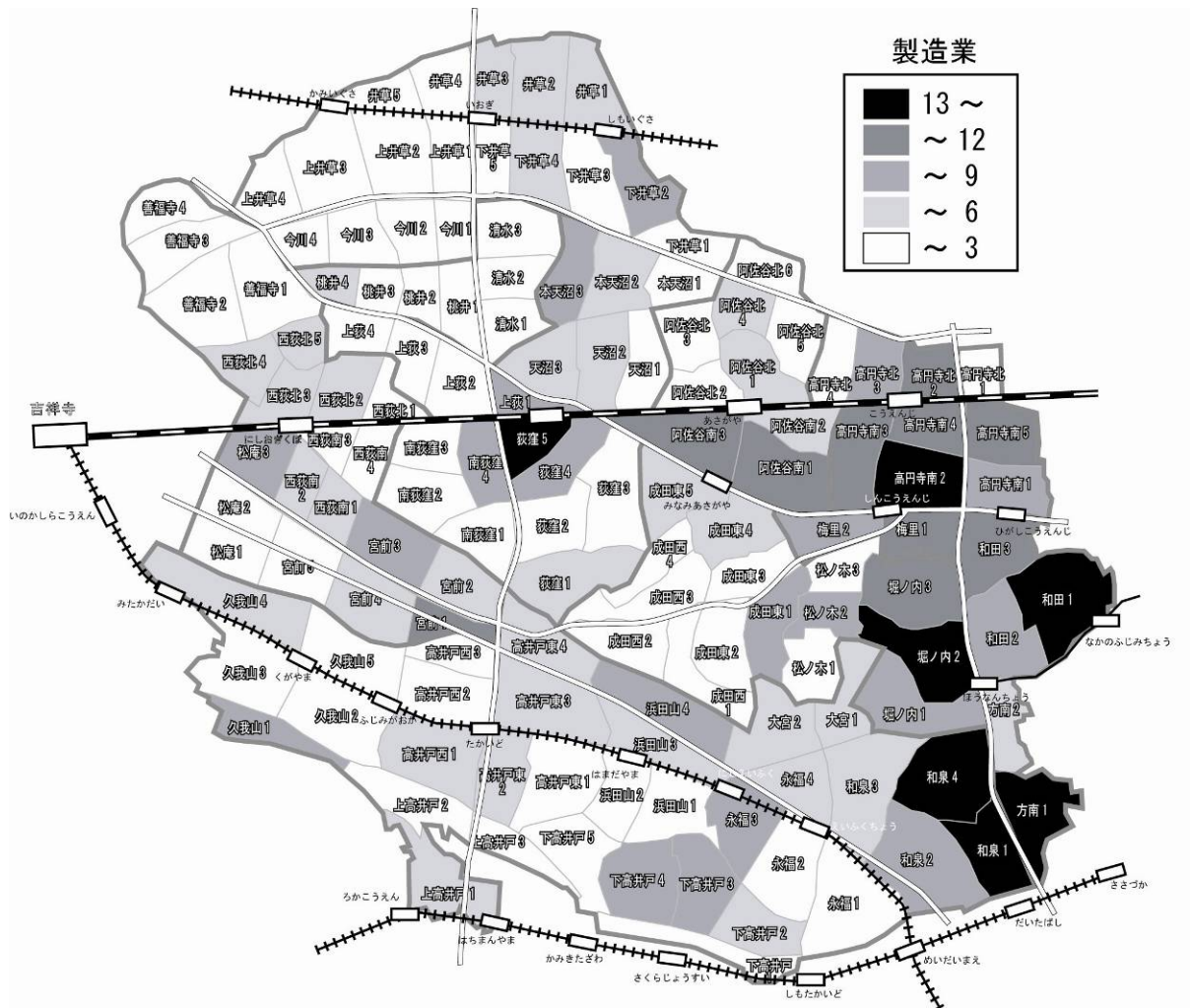
■図表 2-34 町丁目別の事業所数（建設業）



資料：平成 21 年経済センサス

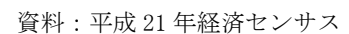
- ・製造業は、建設業と同様に区の東側に多く立地しており、環七通り沿線の各地区と、「阿佐谷南」に集積がみられる。

■図表 2-35 町丁目別の事業所数（製造業）



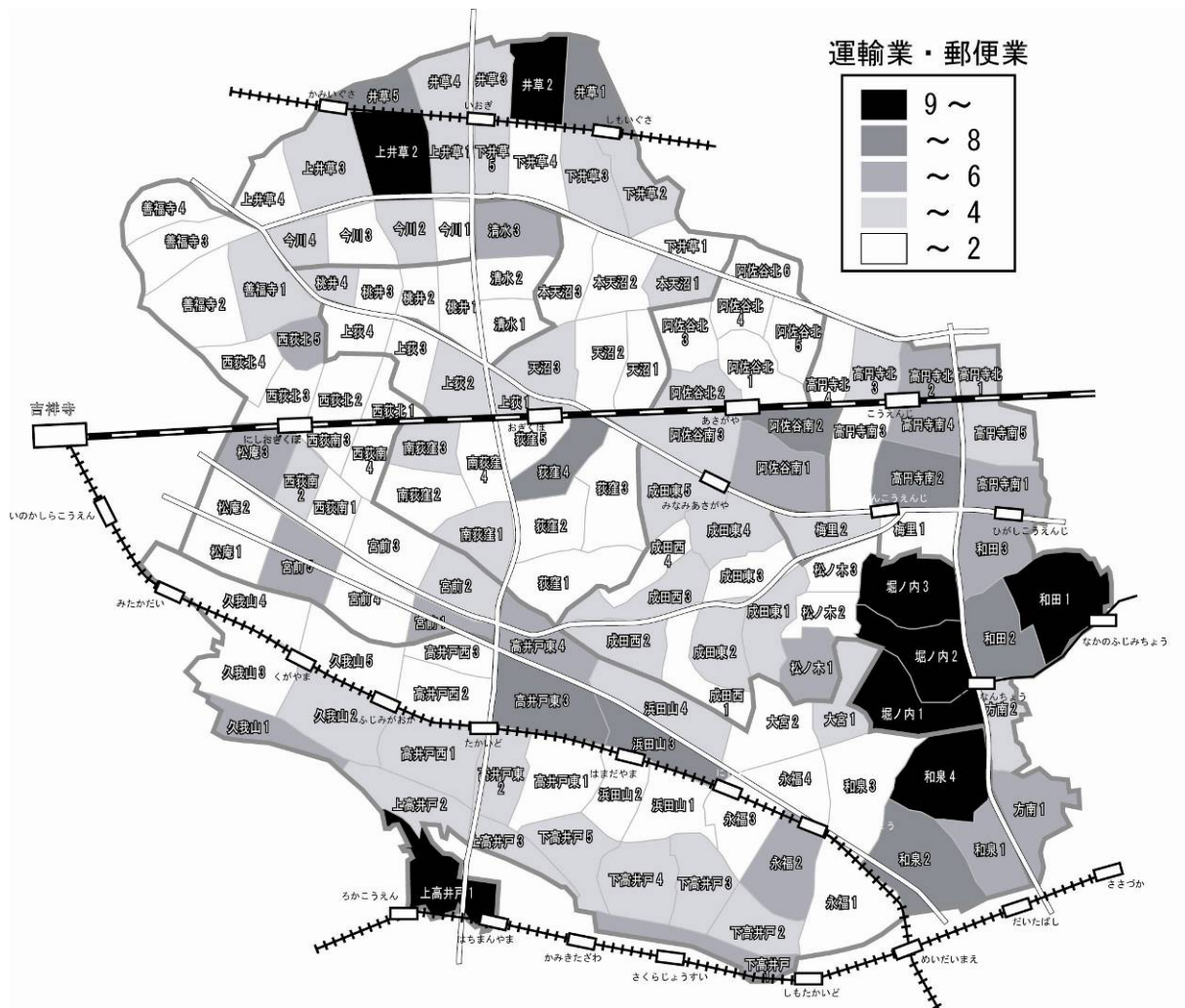
資料：平成 21 年経済センサス

- 図表 2-36 町丁目別の事業所数（情報通信業）



- ・運輸・郵便業は、環七通り沿線の各地区と、西武線沿線、上高井戸1丁目に多く立地している。特に、「都市型工業地区」を目指している堀ノ内及びその周辺に集積がみられる。

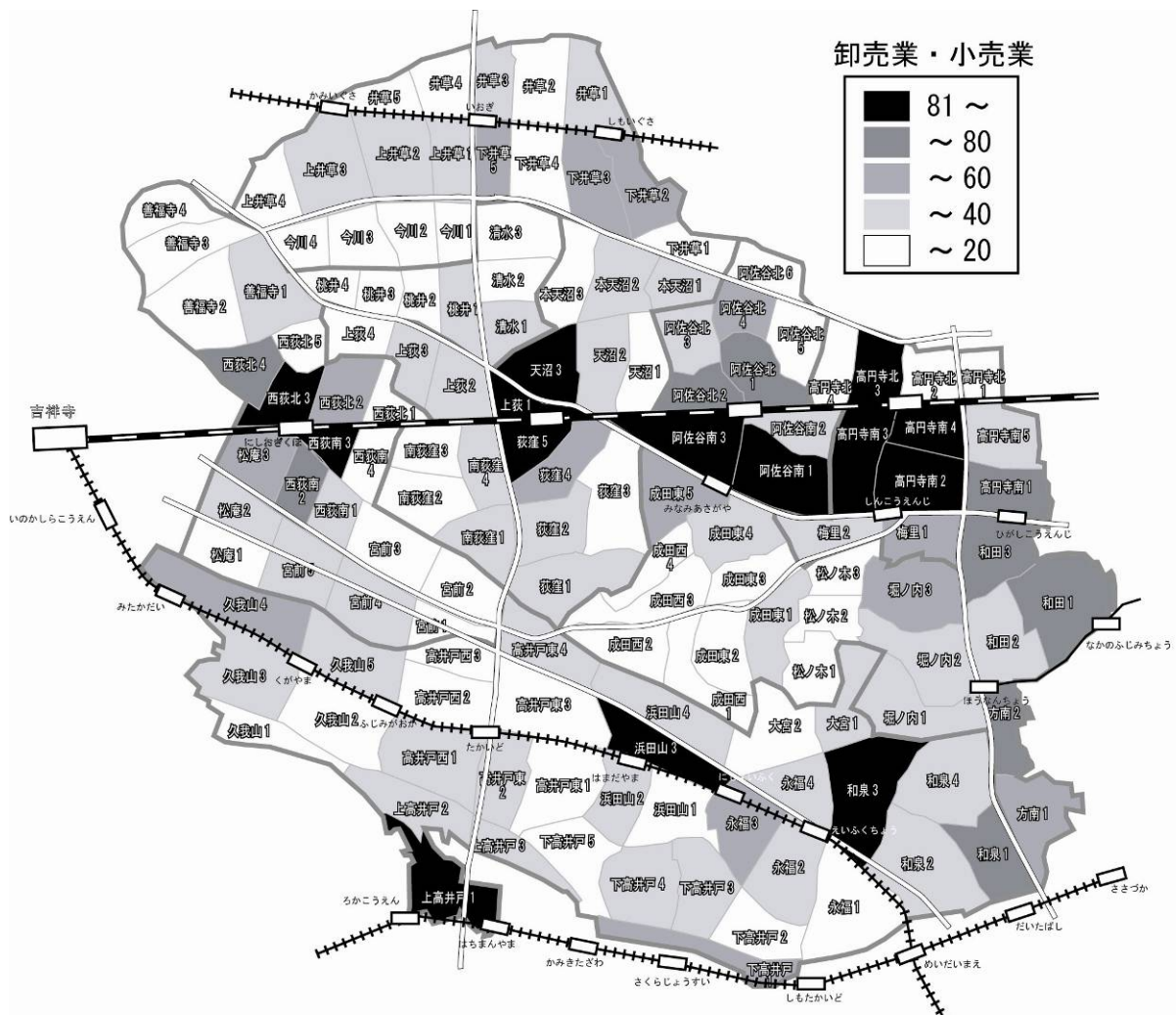
■図表 2-37 町丁目別の事業所数（運輸・郵便業）



資料：平成 21 年経済センサス

- ・卸売り・小売業は、鉄道駅周辺に多く立地している。特に、ＪＲ中央線の各駅は「商業・業務集積地区」を目指しており、商業地域が他の沿線に比べて広く指定されているため、広範囲に商業集積がみられる。

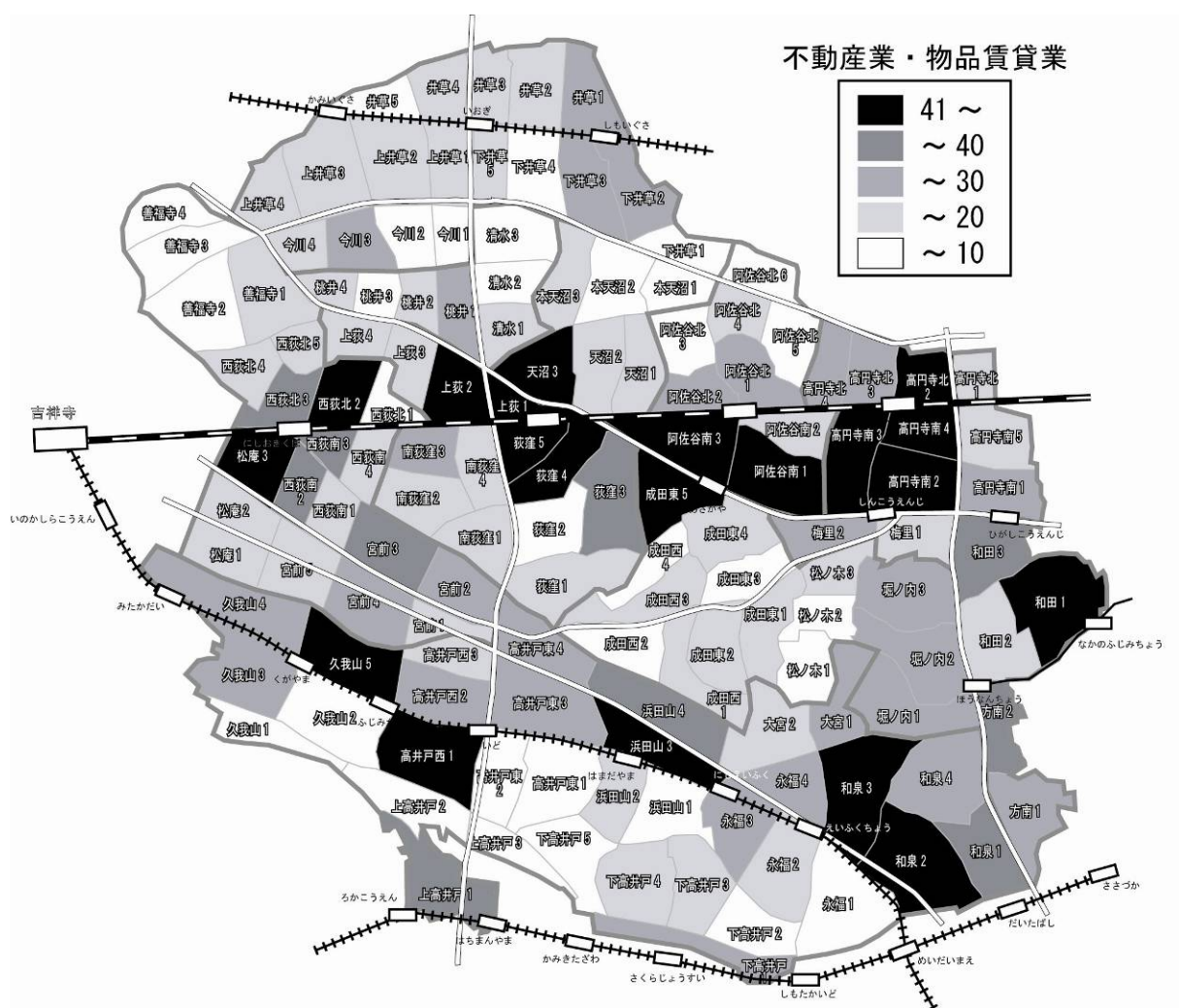
■図表 2-38 町丁目別の事業所数（卸売業・小売業）



資料：平成 21 年経済センサス

- ・不動産業・物品賃貸業は、鉄道駅周辺を中心に区全体に広く分布している。特に、ＪＲ中央線及び京王井の頭線の各駅周辺に集積がみられる。

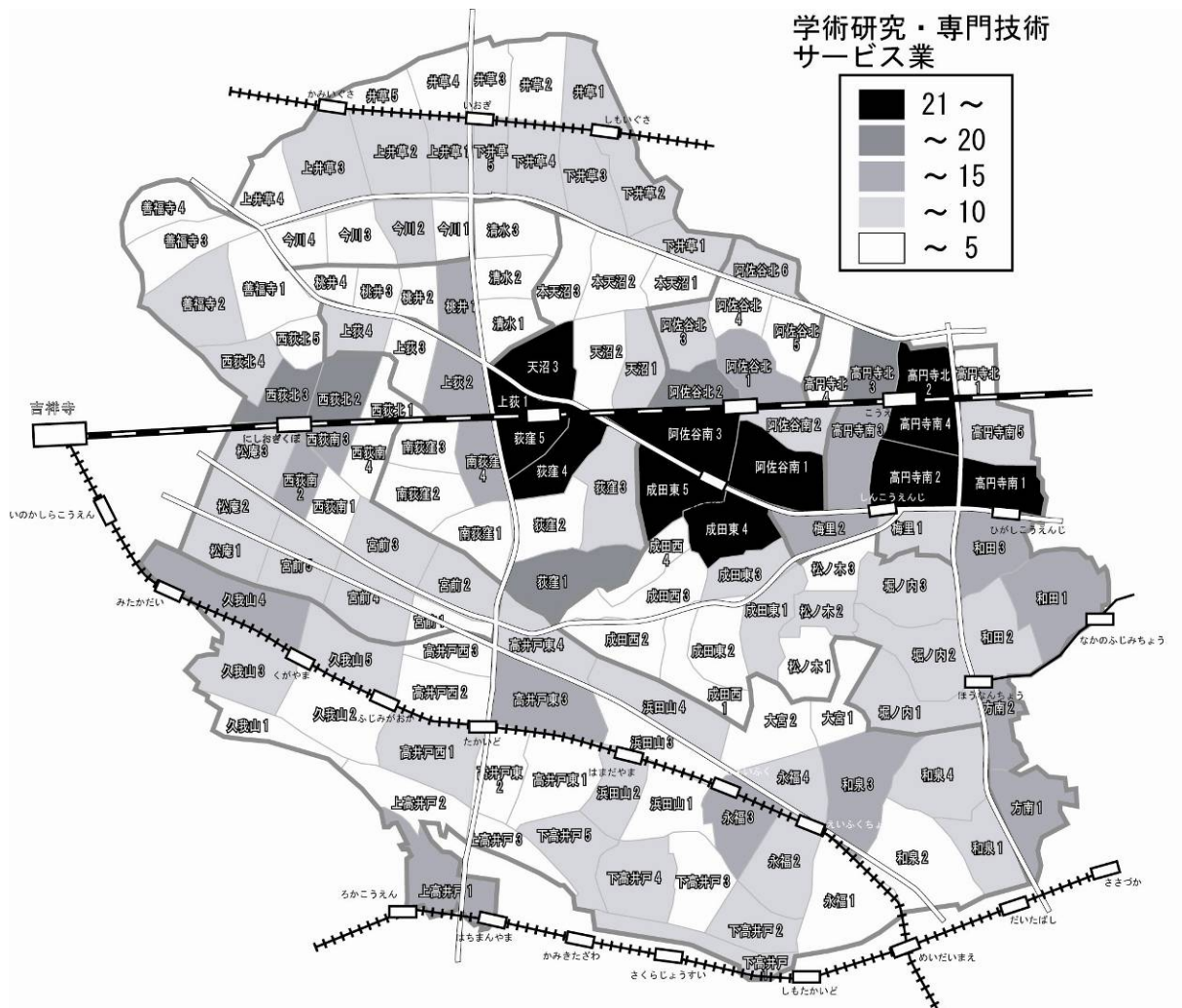
■図表 2-39 町丁目別の事業所数（不動産業・物品賃貸業）



資料：平成 21 年経済センサス

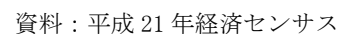
- ・ 学術研究・専門技術サービス業は、荻窪駅、阿佐ヶ谷駅、高円寺駅及び地下鉄丸ノ内線の各駅周辺に多く分布している。

■図表 2-40 町丁目別の事業所数（学術研究・専門技術サービス業）



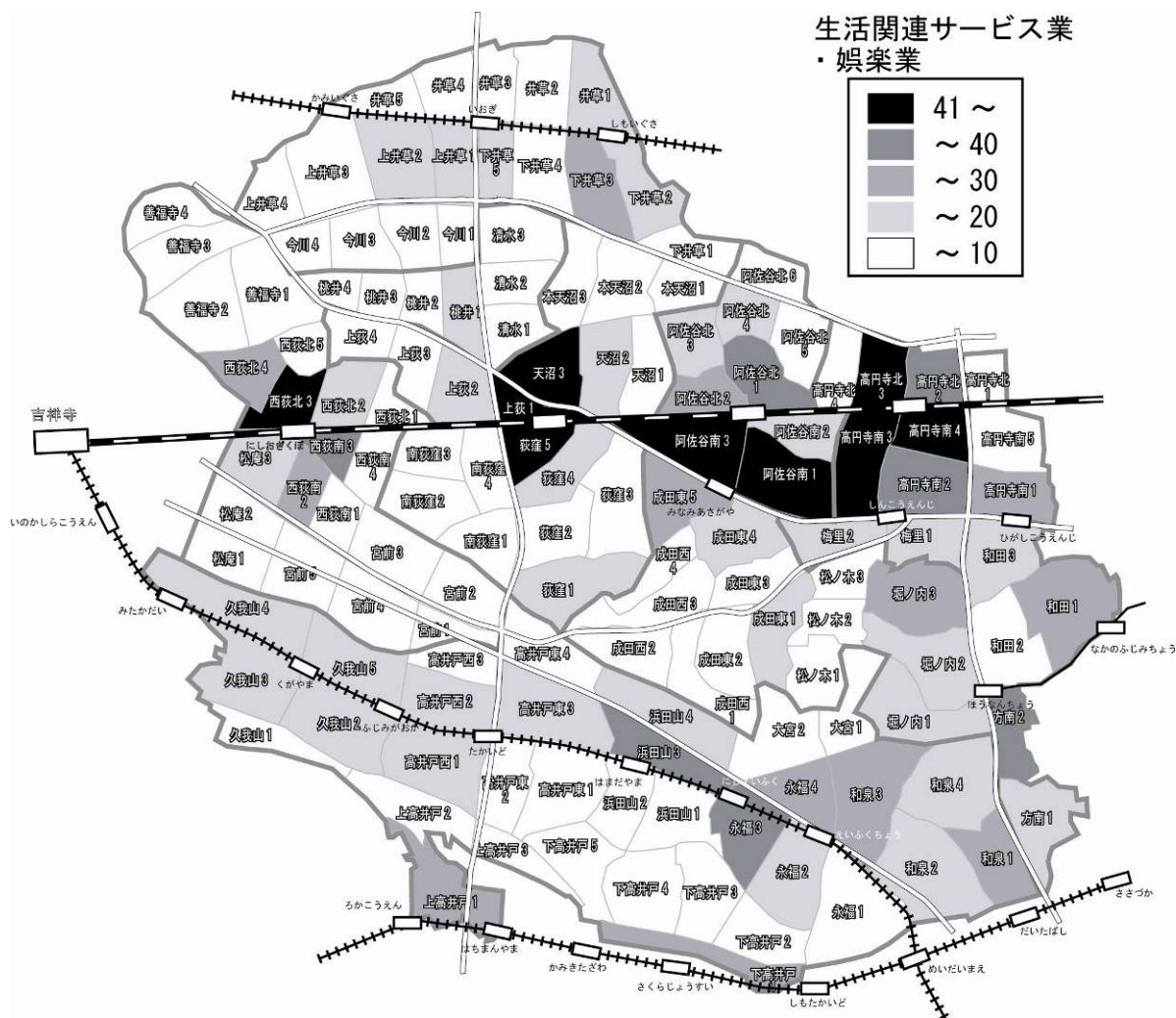
資料：平成 21 年経済センサス

- 図表 2-41 町丁目別の事業所数（宿泊業・飲食サービス業）



- ・生活関連サービス業・娯楽業は、鉄道駅周辺に多く立地している。特に、JR中央線の各駅周辺に集積している。

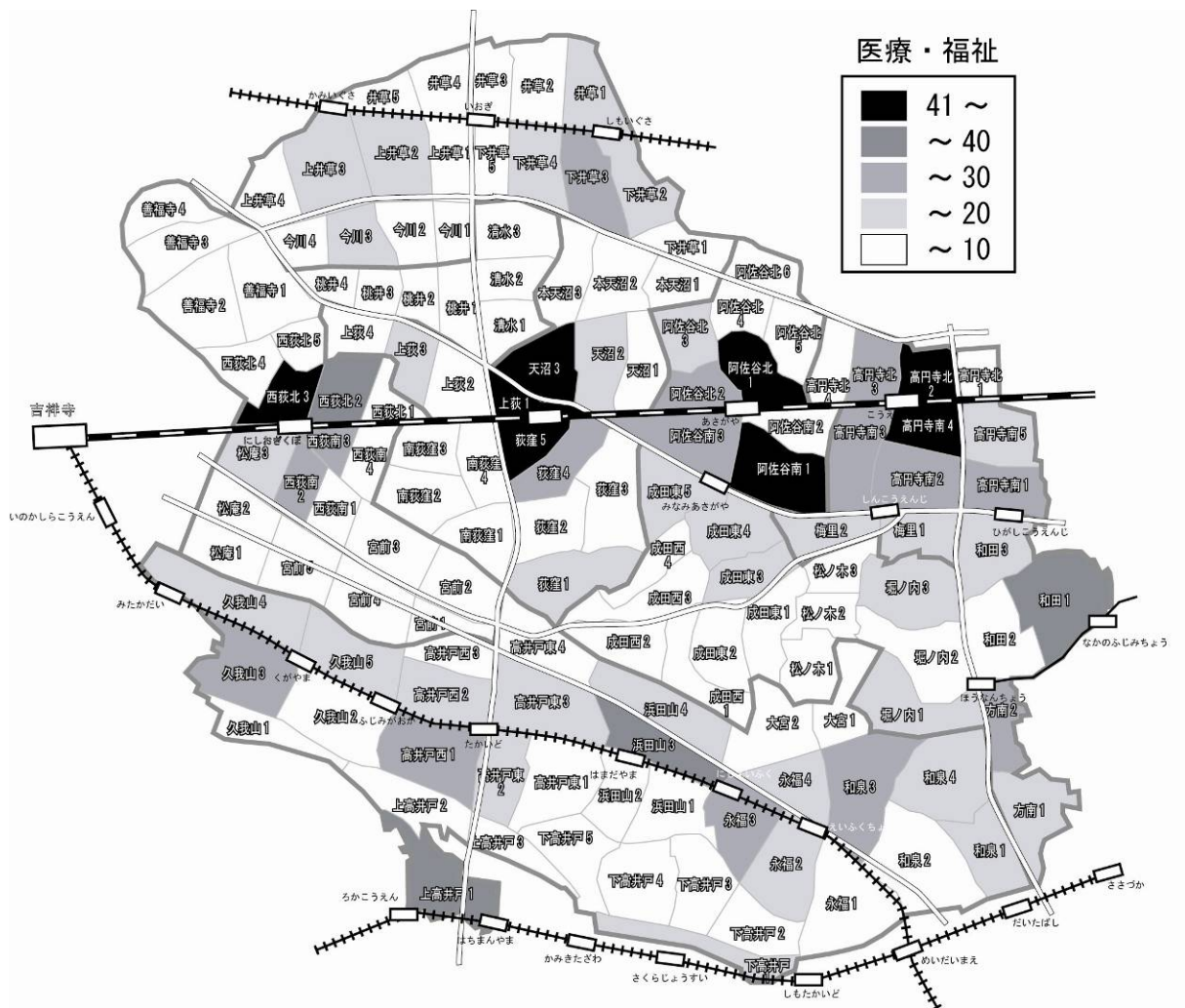
■図表 2-42 町丁目別の事業所数（生活関連サービス業・娯楽業）



資料：平成 21 年経済センサス

- ・医療・福祉は、生活関連サービス業・娯楽業と分布状況が類似しており、鉄道駅周辺に多く立地している。特に、J R中央線の各駅周辺に集積している。

■図表 2-44 町丁目別の事業所数（医療・福祉）



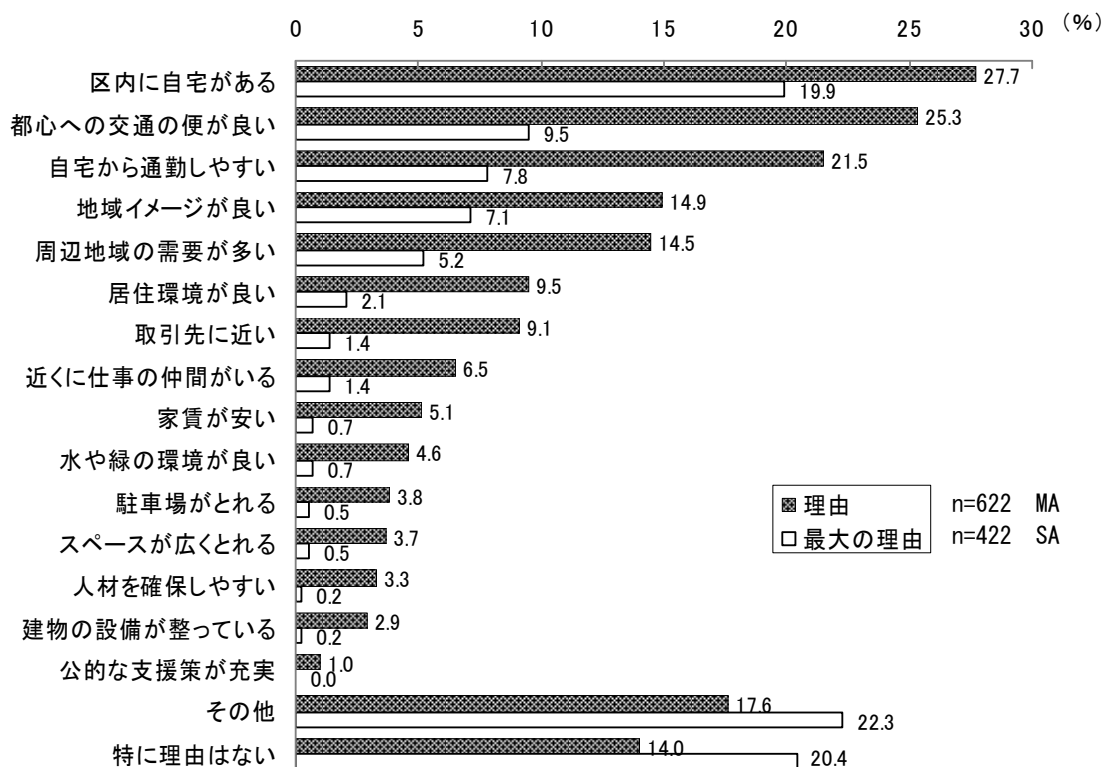
資料：平成 21 年経済センサス

2) 事業所創業・転入の理由

○杉並区で創業・転入した最大の理由は、区内に自宅があること

- ・事業の創業・転入の場所として杉並区を選んだ理由は、「区内に自宅がある」(27.7%)が最も高い。「都心への交通の便がよい」(25.3%)ことや「自宅から通勤しやすい」(21.5%)も比較的高いが、最大の理由をみると「区内に自宅がある」(19.9%)ことが他の理由に比べて割合が高い。
- ・業種別にみると、「区内に自宅がある」ことは多くの業種で指摘されているが、「宿泊業・飲食サービス業」では理由に挙げられていない。
- ・「都心への交通の便がよい」は、「情報通信業」(42.9%)が高い。また、「情報通信業」では、「取引先が近い」(50.0%)ことや「近くに仲間がいる」(21.4%)ことも割合が高く、仕事に関わる移動時間の短さを重視している。
- ・「周辺地域の需要が多い」ことは、「宿泊業・飲食サービス業」(33.3%)と「生活関連サービス業・娯楽業」(30.2%)で高い。同じ商業店舗でも、「卸売業・小売業」は需要の多さを理由とする割合は低い。

■図表 2-45 杉並区で事業を開始した理由

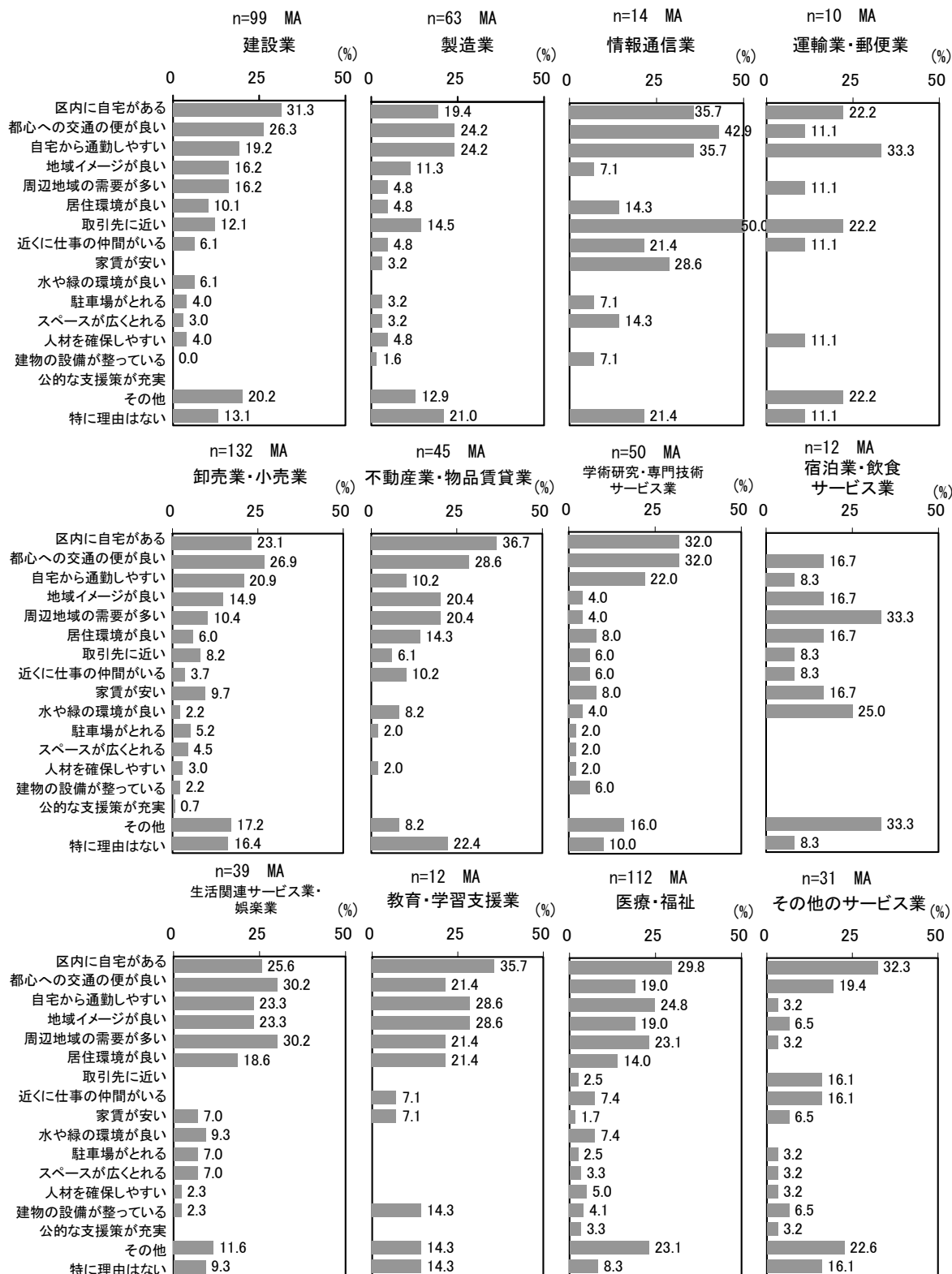


【その他の主な内容】

後継者として事業を引き継いだため(27)／自宅兼事業所のため(16)／不動産をもっていたため(8)／土地勘がある(5)／実家の事業継承(5)／知り合い・コネなどの縁(4)／先代・または創業者が区内在住であったため(4)／人の薦めがあった(4)／本社・親会社などに近い(4)／貨物輸送の利便性(4)

資料：杉並区事業所実態調査

■図表 2-46 杉並区で事業を開始した理由(業種別)



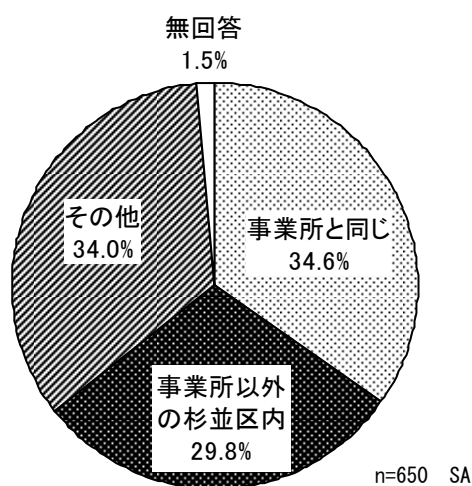
資料：杉並区事業所実態調査

3) 代表者・従業員の居住地

○代表者の区内居住者は6割、従業員の区内居住者が半数以上の事業所は5割

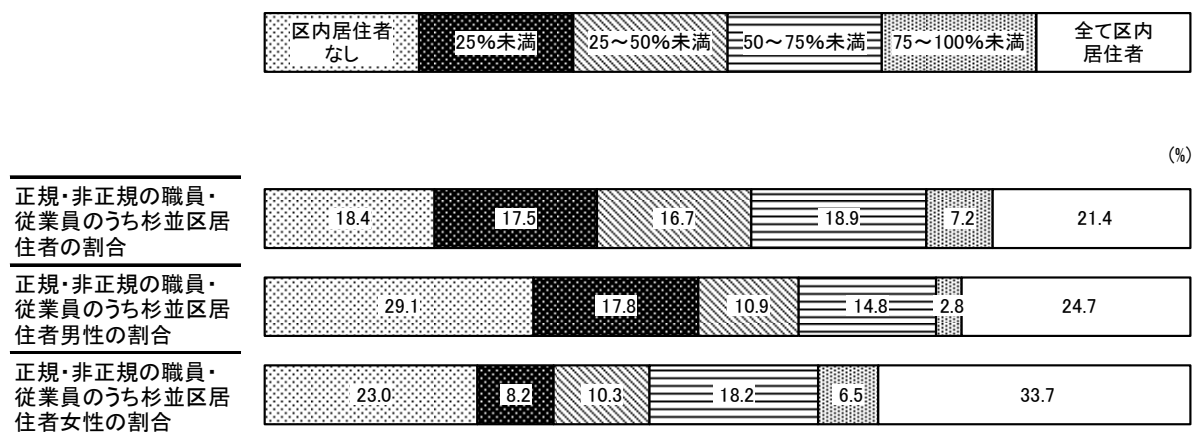
- ・杉並区で事業を始めた理由として「区内に自宅がある」とする事業所が最も多いが、事業所の代表者の居住地をみると、「事業所と同じ」(34.6%)と「事業所以外の杉並区内」(29.8%)を合わせた杉並区居住者は、6割を超えている。
- ・従業員の区内居住者の割合をみると、全員が区居住者の事業所は約2割、半数以上が区内居住者の事業所は約5割となる。また、区内居住の割合は女性の方が高く、女性従業員の半数以上が区内居住者の事業所は、約6割となる。

■図表 2-47 代表者の居住地



資料：杉並区事業所実態調査

■図表 2-48 従業員の区内居住率



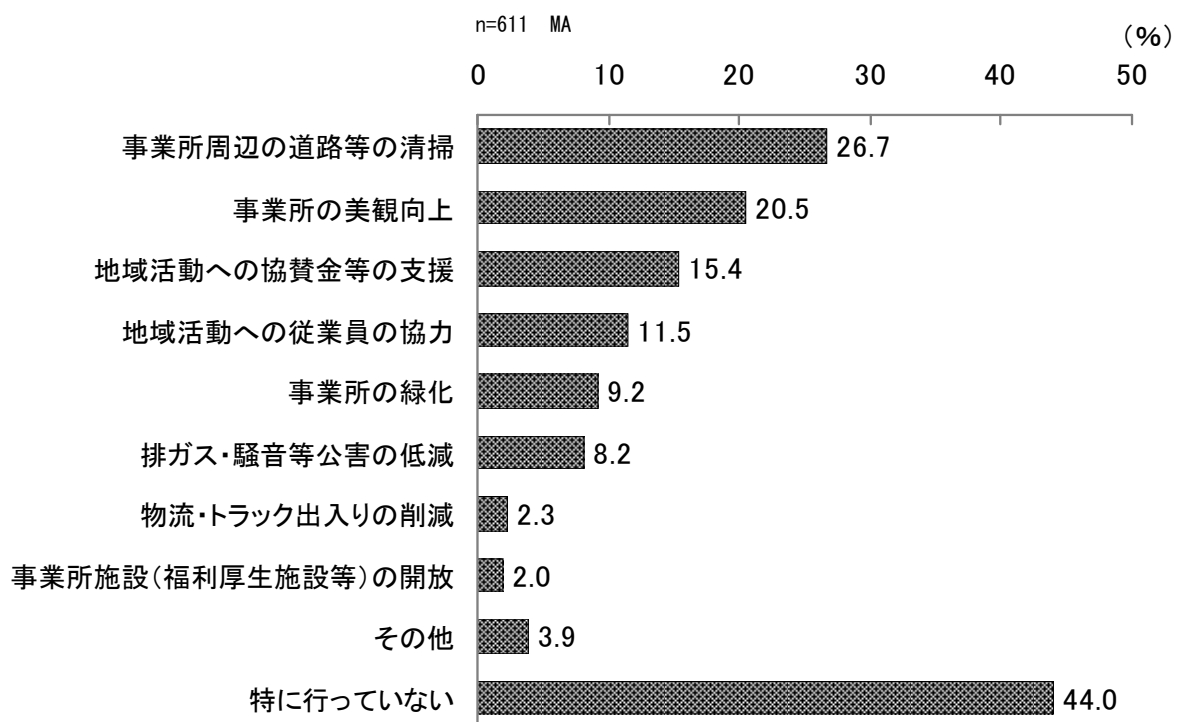
資料：杉並区事業所実態調査

4) 周辺地域への配慮事項

○6割の事業所で周辺地域に配慮した取組を行っている

- ・住宅都市杉並に立地する事業所は、周辺地域の住民や住環境に対する配慮が求められているが、何らかの配慮した取組を実施している事業所は約6割、特に行っていない事業所は約4割となっている。
- ・具体的な取組は、「事業所周辺の道路等の清掃」(26.7%)の割合が最も高く、次いで「事業所の美観向上」(20.5%)、「地域活動への協賛金等の支援」(15.4%)、「地域活動への従業員の協力」(11.5%)の順となっている。

■図表 2-49 周辺地域の住民や住環境への配慮事項



資料：杉並区事業所実態調査

【その他】

<営業方法の配慮>

- ・耐震、防火対策／防音／ダクト設置／作業時間の短縮／騒音・臭い対策の設備／夜間作業の自粛

<生活マナー配慮>

- ・ゴミ出し注意／ゴミの廃棄は専門業者に委託／歩道と車道にまたがって車を止めていて自転車、人も体を横にしないと歩けない。近くの交番にまたお店の方に注意を促す／住民の方とトラブルを起こさないよう気をつけている。ゴミの出し方、自転車の止め方等／駐車して他人に迷惑をかけない／住民に配慮のため、倉庫に車を置かず駐車場を借りている

<地域活動参加>

- ・商店会・町会のイベント参加／地区のこの町をよくする協議会があり参加しています／防災協議会の会員／地域活動への事業主の協力

<職能で貢献>

- ・50年間、地域医療に努めています。疫病予防しています／ソーラーハウスの紹介／子育て相談など／住宅業界なので、建物を建築する際に周辺環境や省エネ等を心がけている

<その他>

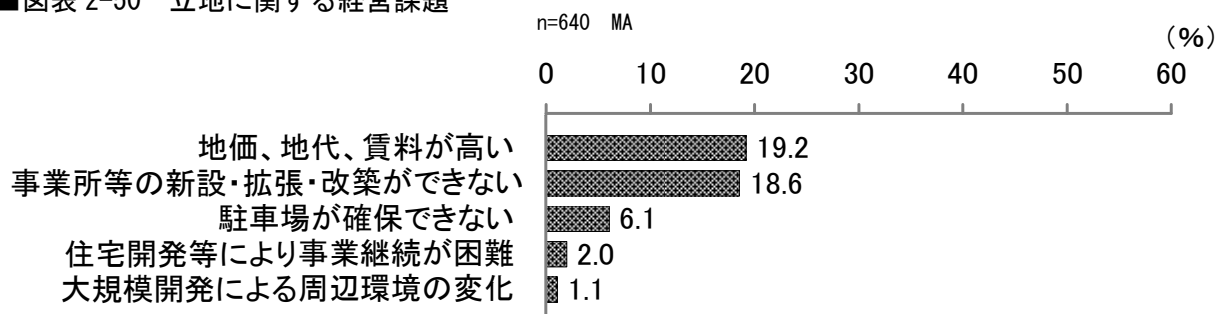
- ・猛暑対策としてのミストクーラーの設置（通行人への涼感を提供）／遊休地の買い上げ／駐車場開放

5) 立地に関する経営課題

○地価、地代、賃料の高さを経営課題としている事業所は約2割

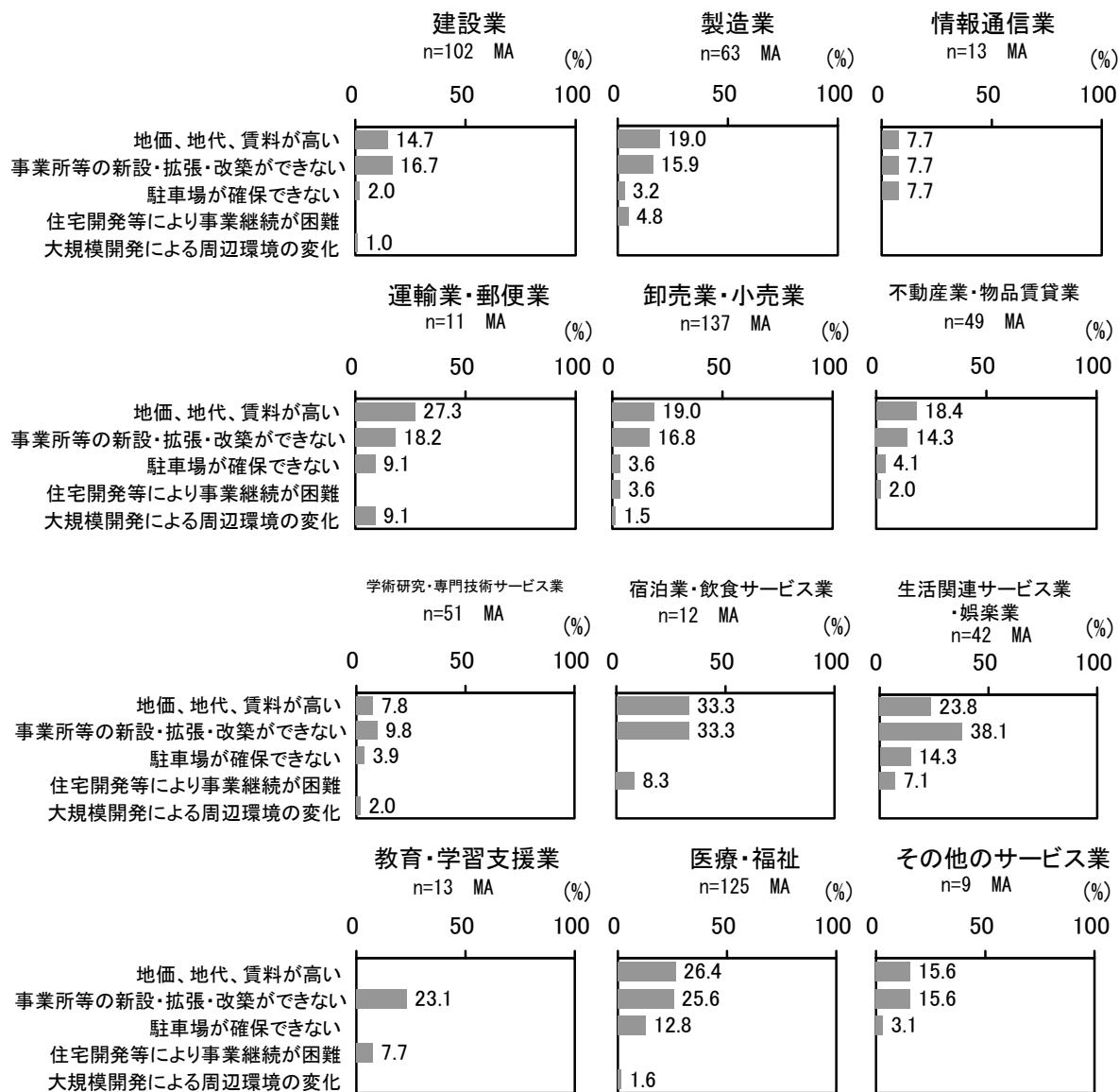
- ・事業所の立地場所に関する経営課題は、収支、市場、人材に関する課題に比べて指摘する割合が低く、割合の高い「地価、地代、賃料が高い」(19.2%)、「事業所等の新設・拡張・改築ができない」(18.6%)でも2割を下回っている。
- ・業種別にみると、「地価、地代、賃料が高い」は、「宿泊業・飲食サービス業」(33.3%)で約3割を超えており、「事業所等の新設・拡張・改築ができない」は、「生活関連サービス業・娯楽業」(38.1%)と「宿泊業・飲食サービス業」(33.3%)で3割を超えている。

■図表 2-50 立地に関する経営課題



資料：杉並区事業所実態調査

■図表 2-51 立地に関する経営課題（業種別）



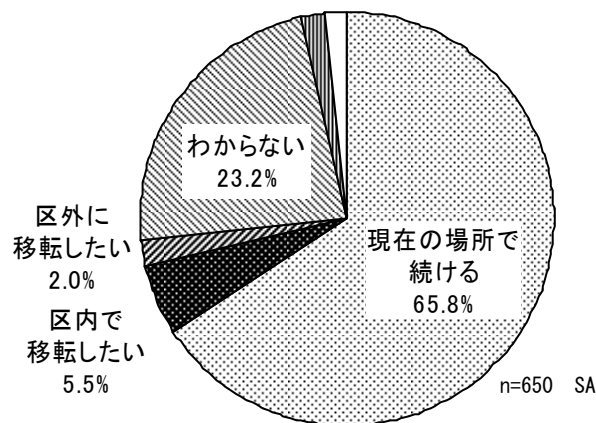
資料：杉並区事業所実態調査

6) 事業所を移転する意向

○区外移転を希望している事業所は2%

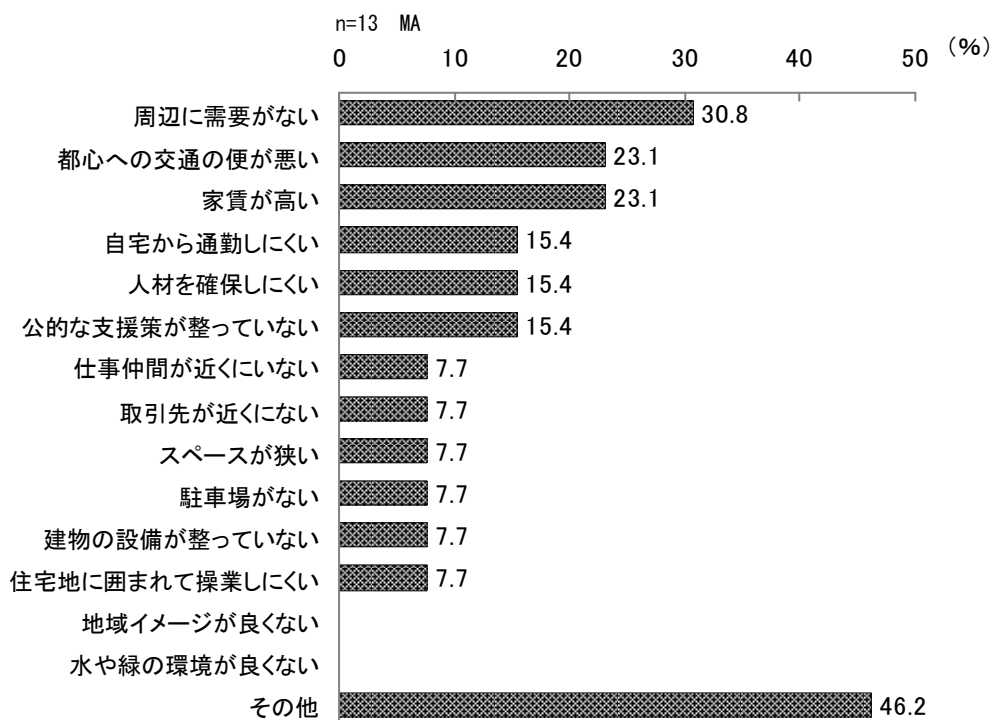
- ・事業所を移転する意向を聞いたところ、約7割の事業所では「現在の場所で続ける」(65.8%)としている。
- ・移転を希望する事業所は、「区内で移転したい」が5.5%、「区外に移転したい」が2.0%となっている。
- ・区外への移転を希望する事業所は13事業所と少数ではあるが、その理由は、「周辺に需要がない」(30.8%)などが挙げられている。

■図表 2-52 事業所を移転する意向 その他 1.8% 無回答 1.7%



資料：杉並区事業所実態調査

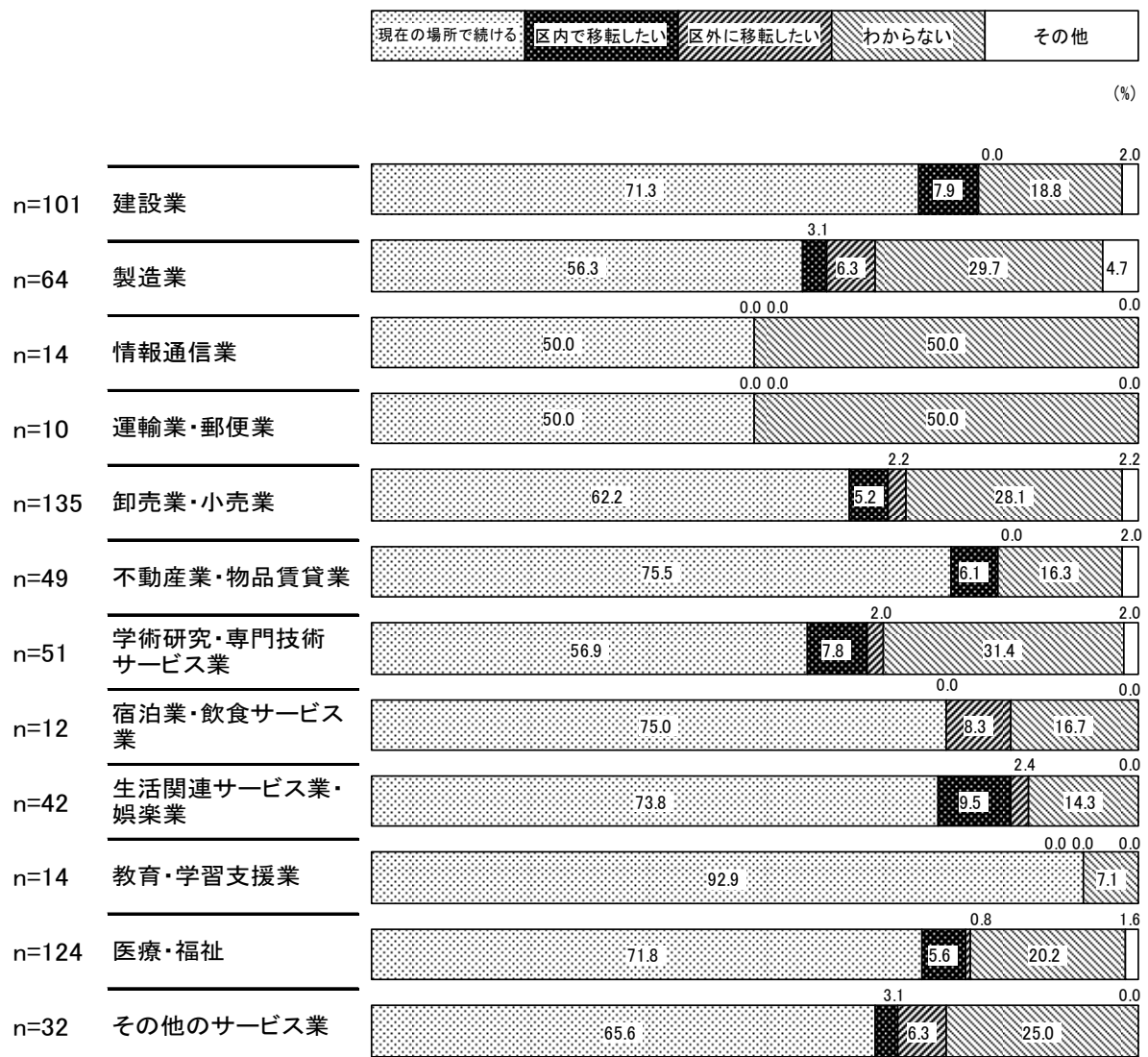
■図表 2-53 区外移転を希望する理由



資料：杉並区事業所実態調査

- ・業種別に移転意向をみると、「現在の場所で続ける」と指摘している事業所の割合が高いのは「教育・学習支援業」（92.9％）である。
- ・一方、「区外に移転したい」と希望している事業所は、「宿泊業・飲食サービス業」（8.3％）が最も割合が高い。

■図表 2-54 事業所を移転する意向（業種別）SA



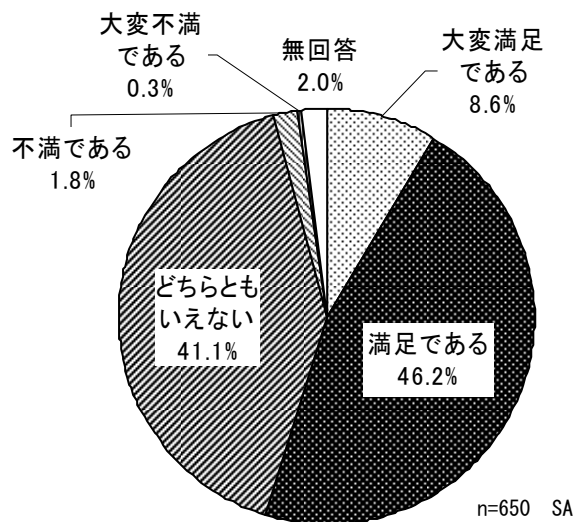
資料：杉並区事業所実態調査

7) 事業環境としての杉並区の満足度

○半数以上の事業所は満足している

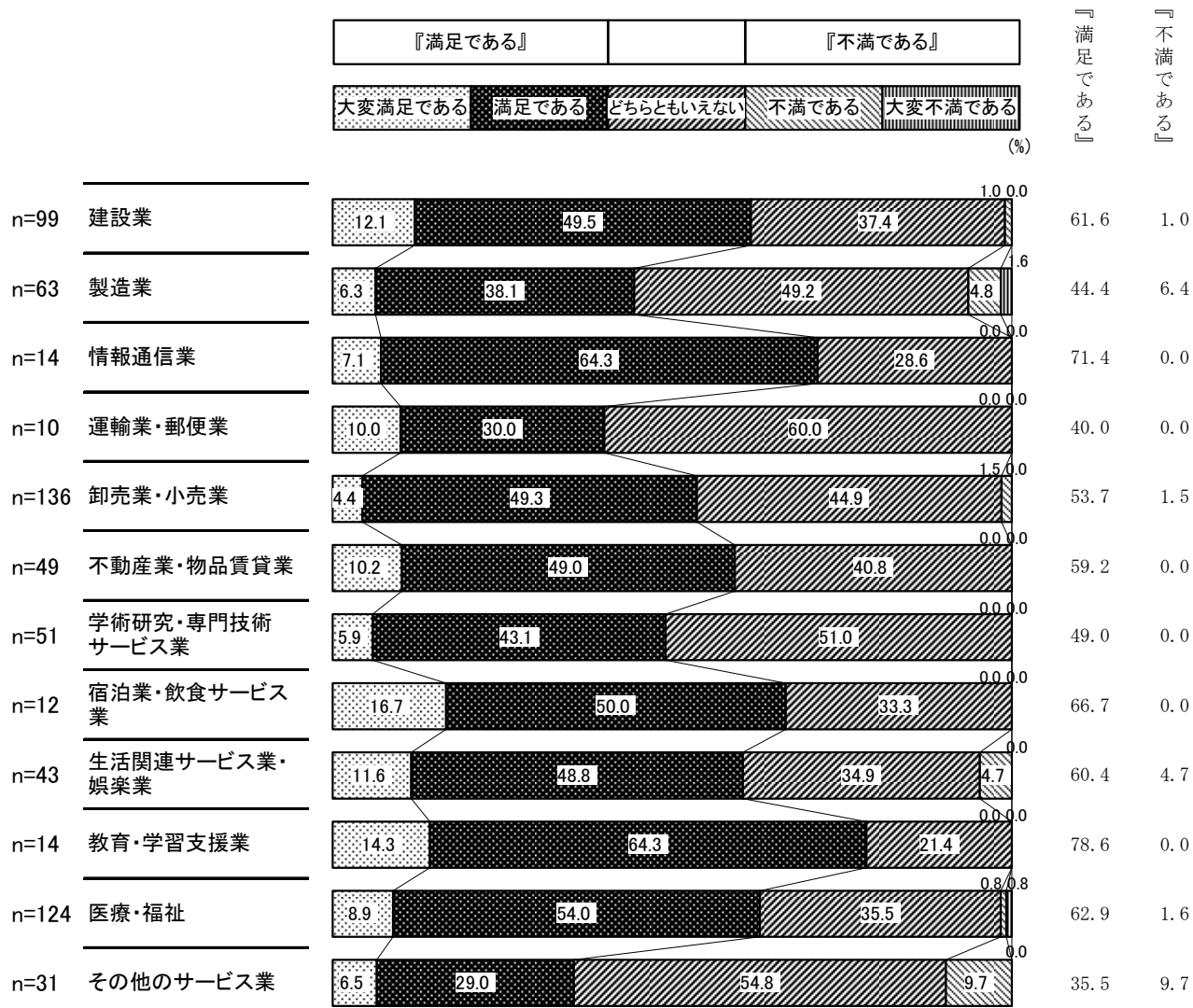
- ・事業環境としての杉並区の総合的な満足度は、「大変満足である」(8.6%)と「満足である」(46.2%)を合わせた『満足である』は54.8%となり、半数以上の事業所から良い評価を得ている。
- ・一方、「大変不満である」(0.3%)と「不満である」(1.8%)を合わせた『不満である』は2.1%となり、少数ではあるが区外への移転を希望する割合(2.0%)に近い。
- ・業種別にみると、『満足である』と指摘する割合が最も高いのは「教育・学習支援業」(78.6%)であり、次いで「情報通信業」(71.4%)、「宿泊業・飲食サービス業」(66.7%)の順となる。
「宿泊業・飲食サービス業」は、「大変満足である」(16.7%)とする割合が全業種の中で最も高い。
- ・『不満である』の割合が高いのは、「その他のサービス業」(9.7%)、「製造業」(6.4%)が挙げられる。

■図表 2-55 事業を行う環境として杉並区の総合的な満足度



資料：杉並区事業所実態調査

■図表 2-56 事業を行う環境として杉並区の総合的な満足度（業種別）



資料：杉並区事業所実態調査

■杉並区の立地に関する意見【杉並区事業所ヒアリング調査より】

○環境共生住宅推進のための容積率ボーナスを検討して欲しい～住宅建設（建設業）

- ・杉並区では、都市計画で低層住宅系の用途地域に多くの地域が指定されており、敷地面積によっては非常に小規模な住宅しか建てられない。それを逆手にとって、環境共生住宅を建てる場合は容積率をボーナスとして上乘せする施策が考えられる。

○容積率が低く事業所の建て替えが難しい～照明機器製造（製造業）

- ・事業規模が拡大し事務所が手狭になった場合は、建替えることも考えられるが、杉並区では都市計画の容積率が低い再開発するのは難しい。

○エリアの特徴に併せた営業～保険業（その他サービス業）

- ・杉並区はエリアによって文化が大きく異なるため、同じ商品であっても、営業のやり方を変えていく必要がある。

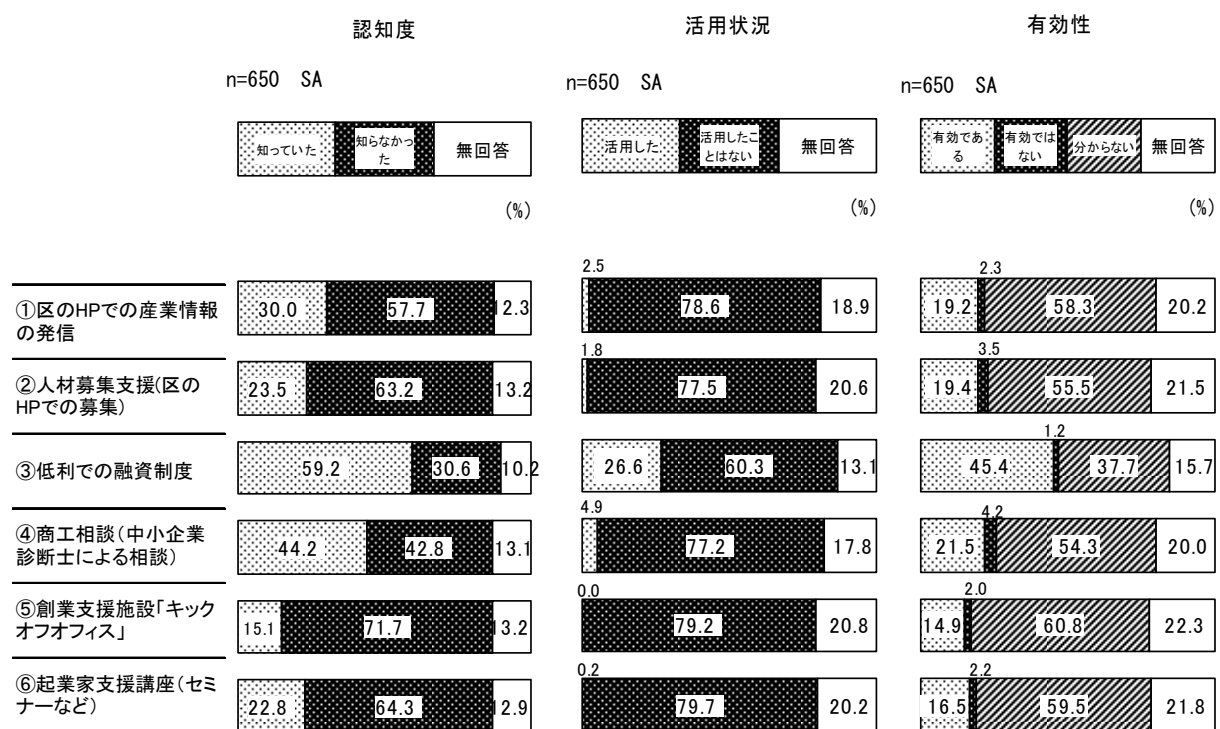
(6) 区の産業施策に対する意識

1) 区の産業施策の認知度・活用状況・有効性

○「低利での融資制度」が認知度、活用状況、有効性ともに最も高い

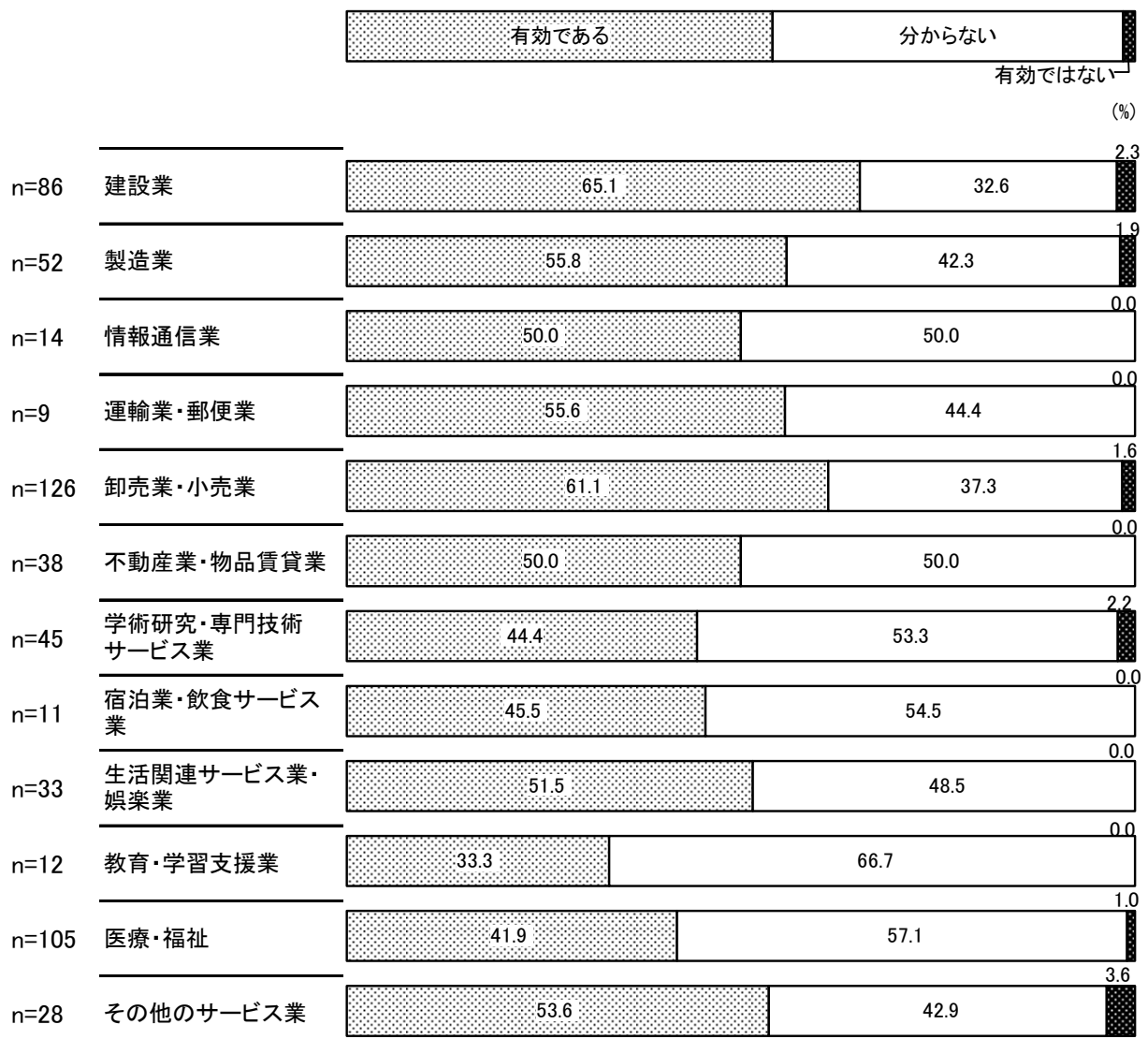
- ・区の産業施策の中で、「低利での融資制度」は、認知度（59.2%）、活用状況（26.6%）、有効性（45.4%）ともに最も高い。「商工相談」は、認知度（44.2%）、活用状況（4.9%）は「低利での融資制度」に次いで高い。
- ・「低利での融資」の有効性について業種別にみると、「建設業」（65.1%）、「卸売業・小売業」（61.1%）の指摘が高い。経営課題で「運転資金の確保」の割合が高い「情報通信業」等の業種に対しては、認知度を高めることで活用する事業所が増えていくと考えられる。

■図表 2-57 区の産業施策の認知度・活用状況・有効性



資料：杉並区事業所実態調査

■図表 2-58 低利での融資制度の有効性（業種別）



資料：杉並区事業所実態調査

2) 事業者の意見

資料：杉並区事業所実態調査

1 区の産業施策について

(1) 既存施策について

<融資制度は活用している>

- ・杉並区中小企業融資制度はありがたく利用させていただいております。きびしい経済情勢の中、利子補給は助かっています。
- ・セイフティーネットにて融資していただいております。信用保証協会の保証料が高く、お金を持っていないと借りられないと感じました。今回は保証料を一部負担していただいたので助かりました。

<融資制度が利用しにくい>

- ・過去数回、融資制度を利用しようと思い相談したが、ハードルが高く国の融資を利用した。

<区のホームページへの企業情報掲載>

- ・安ければ、宣伝になるので、助かります。

<既存施策のPR>

- ・産業施策の詳しい内容について知りません。簡単なPRパンフレットのようなものを配布していただけるともっと周知されると思います。

<なみすけ商品券の継続>

- ・なみすけ商品券はとても好評で地域内の利用が多いので今後も継続していただきたい。

(2) 産業施策への希望

<融資制度の充実と簡素化>

- ・融資制度の充実と簡素化を考えてください。

<都市計画等の規制緩和>

- ・住居地域ということで事業所(工場)が認められず廃業する事業者が多数います。どうにかありませんか。
- ・住宅地ということで産業(一部地域密接産業をのぞく)に対して生産条件が他区に比べ規制があり、区内より脱出する企業が多かったと思う。高齢化、地域商店減少が進んで活気が無いように思う。産業のない区は将来どのようなになるのか、長年住む私どもは不安である。将来に向かって区は産業をどのように考えられているのか知りたい。
- ・産業、企業が活動しやすいような政策の実施や規制緩和などをお願いしたい。

<高齢者の雇用機会の創出>

- ・シルバー層の活用について思慮して欲しい。
- ・現在考えていらっしゃると思いますが、高齢者が豊かに暮らせる仕事の場を与えてください。考えればあります。

<クライアントとのマッチング>

- ・クライアントとマッチングしていただきたい。

<入札制度の見直し>

- ・現在団体への受注で随意契約から入札制に移行されると聞いているが過当競争による価格破壊をおこすため、不安材料の要因が増すばかりであり、今までどおりの随意契約の部分も残してほしいです。

<区内企業への優遇策>

- ・自区内業者の育成を主眼にして、入札以外にも区内業者を優先するように施策を施してほしい。
- ・アンケートに返答したように、苦しい状況が続いております。どのような取組みをすれば良いのかわかりません。区の活性化の為に

ぜひとも区の事業者・区民にお力添えをお願いします。

＜公共事業の実施＞

- ・過去 20 数年建築業界は質・量共に低迷を続け、食うや食わずの状態が続いてきました。弊社もその末端として、今や瀕死の状態といっても過言ではありません。公共工事、民間工事を問わず仕事量がほしいの一言です。公共事業は携わる人々の裾野が広く、大勢の雇用を生み直接間接に産業活性化につながるので震災復興に限らず実施いただきたいと思います。
- ・そもそも、国家・行政・地方自治体に産業政策に関してあまり期待していない。できるとすれば公的投資ぐらいであると考えている。経営コンサルなどは到底期待できない。なぜなら、こちらの方が経営のプロ集団だからである。産業政策へのテコ入れの意欲は分からないでも無いが、そのようなことに税金を使うのではなく、国家も地方自治体も収入に見合った支出で「経営」を考えるべきだ。

＜公共施設の開放＞

- ・荻窪駅近くにある杉並区の施設「あんさんぶる」を中小企業の研修や会議にも使えるようにしていただきたい（物販や販売目的を除く）。以前、杉並公会堂が建て替えられる前には小さな会議室や教室もあり、自社の研修や商店街の集まりにも利用できて便利だった。
- ・区内中小零細企業の区有施設（会議室等）利用時の登録の簡易化及び利用助成
- ・大きなイベント、大人数での会合等に使用できる会場がない。（例）ホテル他 杉並区内で催しができる会場があればよい。他区に移動しての集会は時間がかかる。

＜地元企業のPR＞

- ・具体的に各企業の紹介を区報と関連するメディアで取り上げ地元の商店企業をアピールするのはどうか。今まで見たことがない。

＜情報の収集と発信＞

- ・マーケティングと情報提供を積極的に行ってほしい。

＜企業への助成＞

- ・助成金の施策を増やしていただきたい。

＜施策の継続性の確保（アニメーション関係者）＞

- ・アニメーション関係者が積み重ねてきた成果を専門家でないものが判断し、政策としてきたことには全く納得がいきません。アニメの日本一の町と唱ってきた杉並区ですが、練馬区に今はすっかりと座を奪われています。また、海外における交流やイベント、予算組み、助成金等も天と地の差があります。私たちが杉並区を愛し、一生懸命頑張ってきたことは運が悪かったのでしょうか。この初春、杉並区の多くのアニメーション会社が倒れてしまっています。産業に関わる施策とは、当事者を交えて行われるべきです。

＜生活密着型の事業を育成＞

- ・生活密着型の事業を住宅地に立地可能とし、生活環境を活気あるものとすべきである。コミュニティが育たない、交流する場がない。

＜ベンチャー企業支援＞

- ・当社は通信機器関連の特殊な電子回路設計・製造を行っておりますが、近年の不況の影響で独自の持つ特殊な技能を有効に活かせる場がなく経営上も苦慮してきました。セキュリティ等の技術もあるため幾つかの展示会

にも出展しアピールもしてきましたが、国内の大手企業も同様に不況の影響で他社からの技術導入に消極的であるため、自ずと当社のような零細企業にも技術を活かす場所が見いだせません。杉並区内で長年営業を行ってきましたが近々移転を考えております。杉並区に限らず国を挙げて技術力のあるベンチャー企業の支援策をもっと考えていただきたいと願っています。

2 その他の意見

<人材を確保できない>

- ・人材雇用が出来ない。職種により労働時間の特殊性もある。
- ・調理パート（補助）を新聞チラシ等で募集しますが、地区的になかなか人が見つかりません。賃金も平均的だと思いますし、年齢制限もないのですが、杉並区は働く女性が少ないのでしょうか？
- ・当社は零細企業なので懸命に働かねばなりません。一日及び週の労働時間等、また休日の運用もままならない状況です。特殊な知識を必要とするため、人材の確保など困っているのが現状です。約3年見習いをした中から人材発掘せねばならず、研修3年間の賃金支払い等苦慮します。

<自分の事だけで手一杯>

- ・地元商店会による地域によるまちづくり等色々なことは行ってもらっていますが、自店のことは年齢のためや時代のためか環境に合わせて行くことが精一杯だと思います。会員の皆様も話を聞きますと自分自身のこと一杯と言います。

<その他>

- ・町をきれいにしてほしい。芸術的なアートな

どを飾ってほしい。西荻の駅の所にある置物とか面白い。きれいなまちづくりをすればいろんな人が訪れてくれるから。

- ・車イスの人が楽しめるようなイベント。
- ・お金がかからず子ども楽しめるイベント。
- ・カルチャーセンターなどの充実、商店街の人達を先生にいろんな教室。おしゃれ教室、洋服の選び方、お化粧の仕方など。
- ・CO2削減の為の太陽熱及び太陽光のエネルギー利用を積極的かつ具体的に実行していただきたい。
- ・先代の事業を続けていくことです。
- ・物販の機会を多く企画する（地域が主催）。
- ・労働意欲向上のトリガーが必要かつ重要であると考えます。
- ・区内の業者を大事にして下さるので有り難いです。それが回り回って区民税になりますので、頑張り甲斐が有ります。又、各種の補助金でいろいろなことが出来るのでこれからも宜しくお願い致します。商売を通じて若い出会いの場があれば良いと思う。

3) 区民の意見

資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

(1) 産業振興の方向

<産業の誘致>

- ・空き地はマンションディベロパーに売るだけでなく、杉並区内に本社を置きたくなるようなオフィススペースを作るようにしてほしい（久我山4）。
- ・地盤の良さを売りにしてぜひデータセンタを誘致してほしい。特に国のマイナンバー導入議論に乗って国民のID管理系のビジネスをトリガーしてほしい（久我山4）。
- ・大規模な企業があと数社あれば良いと思う。出来れば日本企業での有事にも「事業継続性が高い」などの付加価値をつけて、新宿、品川、八重洲に対抗してほしい（久我山4）。

<独自の方向性をもった産業の育成を>

- ・区の産業として独自の方向性を持った産業を育成して欲しい（下井草1）。

<自然エネルギー普及を促進する>

- ・区内のみどりの保全と、自然エネルギー産業の振興を重視して欲しい（井草2）。
- ・太陽光パネルを軽く安価にして世界中に売りましょう。日本の技術に期待しています。地熱発電もどんどん開発して下さい（阿佐谷北1）。

<阿佐ヶ谷駅周辺の再開発>

- ・阿佐ヶ谷駅北の再開発（西友、杉並第一小学校、〇〇の森）南阿佐ヶ谷駅の再開発（区役所、阿佐ヶ谷中学、駐車場）、地域振興プロジェクトチームをつくってフォーマットづくりをする（高円寺北4）。

2 事業所への支援

<区で民間サービスをPR>

- ・公共サービスやボランティアには限度がある。民間のサービスをもっと区で紹介してあげて（堀ノ内3）。

3 その他

<産業振興は区民参加で意見交換をする>

- ・買い物については満足していますので特に意見はありませんが、区の産業振興についてはもっと区民を巻き込んで委員会なり意見交換会のようなものを実施して欲しいと思います。私も微力ながら協力させていただきたいと考えています（下高井戸3）。

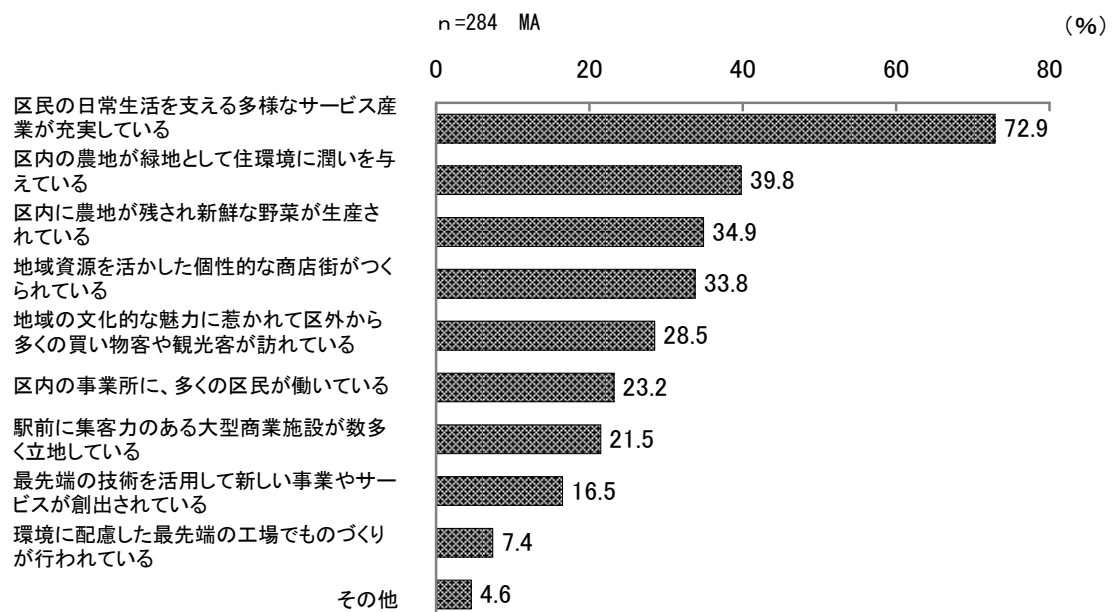
(7) 区民が望む杉並区の産業の姿

〔区民が望む杉並区の産業の姿〕

○日常生活を支えるサービス産業の充実化を望んでいる

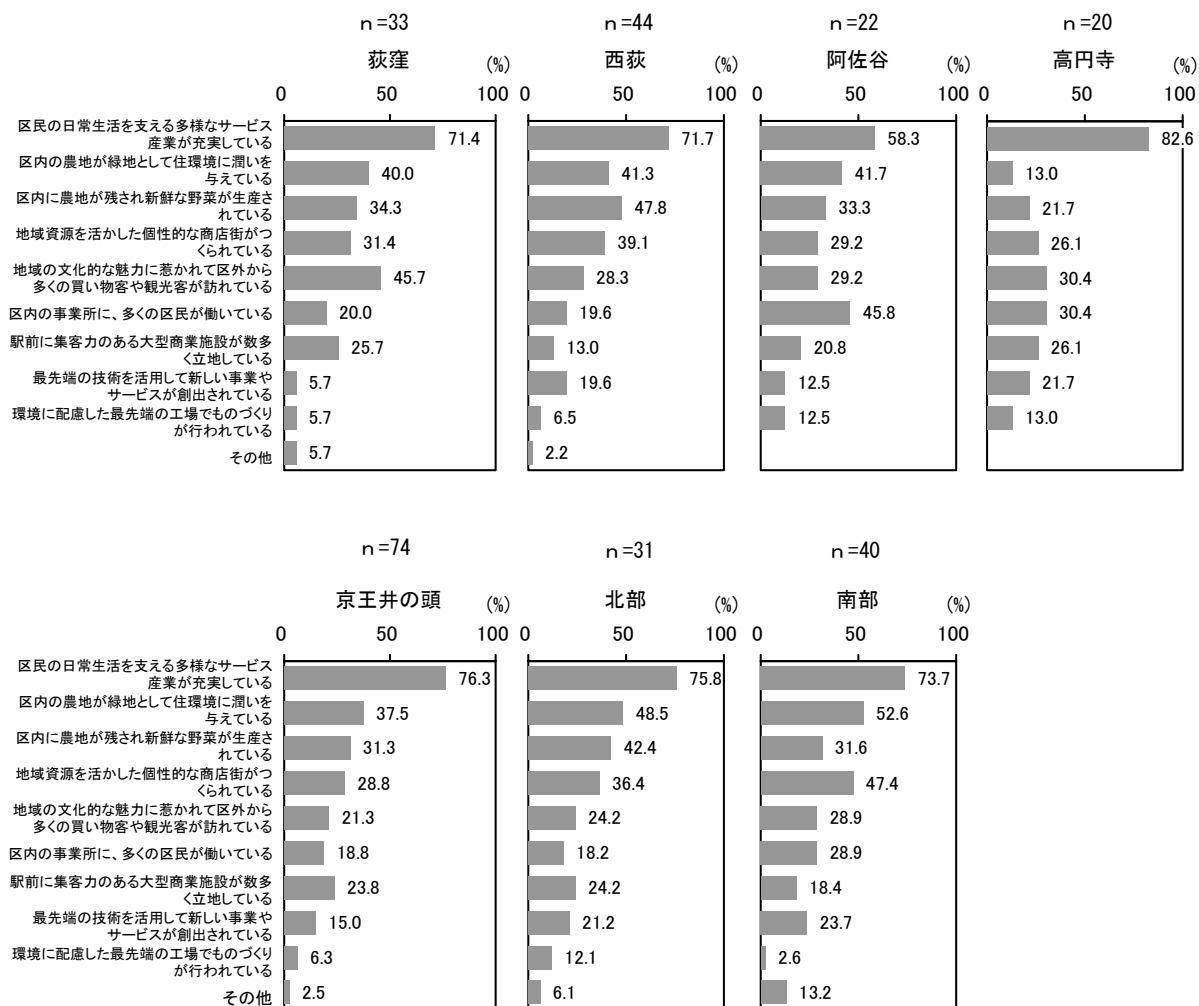
- ・杉並区が目指す産業の姿として、区民が望む将来像は、「区民の日常生活を支える多様なサービスが充実している」(72.9%) が7割以上と高い支持を得ている。
- ・また、「区内の農地が緑地として住環境に潤いを与えている」(39.8%) ことや「区内に農地が残され新鮮な野菜が生産されている」(34.9%) など、農地の活用に関する指摘も高い。
- ・地域別にみると、「区民の日常生活を支える多様なサービスが充実している」はどの地域でも最も指摘が高く、特に高円寺地域は82.6%と高い。逆に高円寺地域では身近に農地がないことから「区内の農地が緑地として住環境に潤いを与えている」(13.0%) の指摘は少ない。
- ・荻窪地域では、「地域の文化的な魅力に惹かれて買い物客や観光客が訪れている」(45.7%) が他の地域よりも高く、阿佐谷地域では「区内の事業所に、多くの区民が働いている」(45.8%) の指摘が高いのが特徴的である。
- ・また、南部地域では農地が残されているが、「区内の農地が緑地として住環境に潤いを与えている」(52.6%) 将来像の方が、「区内に農地が残され新鮮な野菜が生産されている」(31.6%) ことよりも指摘が高い。

■図表 2-59 区民が望む杉並区の産業の姿



資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

■図表 2-60 区民が望む杉並区の産業の姿（地域別）



資料：杉並区の産業に関する区民意向調査